

## [仮想RS-232C 通信仕様]

### 1. シリアル/F仕様

受信ユニットとホストPC間は、電気的特性をUSB2.0 FULL SPEED規格に準拠したシリアルインタフェースにて通信が行われる。

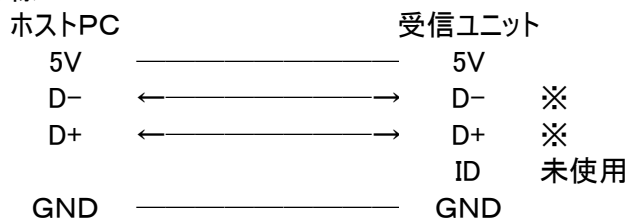
OS上では、USBシリアルクラスによるUSB-Serial Bridgeを利用したシリアル通信を行う。

#### ①使用符号

ローマ字7単位符号準拠

(データ伝送は8ビット、最上位ビットをマスクして使用)

#### ②信号線



※ USB2.0 FULL SPEEDに準拠する、差動信号

ホストPCと受信ユニットとの接続には、TypeA-miniBケーブルを御用意ください。

#### ③データ伝送方法

同期方式：調歩同期(非同期通信)

伝送速度：115,200bps

データ長：8ビット

パリティ：無し

ストップビット：1ビット

フロー制御：無し

制御手順：無手順

#### ④レスポンスの構成(ホストPC←受信ユニットの通信の詳細)

基本構成 ' < ' + "文字列" + 「CR」+ 「LF」

開始キャラクタ' < 'より、終了キャラクタ「LF」までをひとつのセンテンスとして連続送信する為、ホストPC側は最長センテンス長に対応できる必要がある。

※ アプリケーション製作の参考資料によっては、[LF]が[NL]と記載されているものもありますが、どちらも同じ意味で、LF,NL共に次の行に移ることを表します。

LFはLine Feedで、NLはNew Lineを表します。

## 2. スイッチの押下、信号の入力

ユニット専用に割り当てられたデータコードを使用する。

コードを認識できなかった場合には、何もレスポンスを返さない。

受付された状態に対応したシリアル・データを以下のように出力する。

番号	コード名称	データ文字列
1	ショート	<L¥r¥n
2	オープン	<H¥r¥n

注) データ文字列の¥r、¥nは改行、復帰文字コード、その他はアスキー文字です。

例) <H¥r¥n の場合、  
3CH 48H 0DH 0AH  
の4バイトの文字列となります。

- ※ DOS及びWindows上においては、[¥r¥n]は[¥n]とだけで表されます。  
また、OSにより表現が異なりますので、御使用のOSがどの様な表現になっているか確認してください。
- ※※ [¥]は日本語OSでの表記となり、それ以外では[\\]バックスラッシュが使われます。  
日本語環境のため正しいバックスラッシュが表示できないため、上記記号では全角を使っています。  
ご利用の環境に合わせて読み替えていただきますようお願いいたします。